令和８年６月６日
公益社団法人日本近代五種協会

# 財政に関する中長期計画Ⅱ

公益社団法人日本近代五種協会（以下「本協会」という。）は、スポーツ競技団体として安定した財政基盤を確保し、持続的に安定かつ健全な協会運営を実現していくために、この『財政に関する中長期計画Ⅱ』を策定するとともに本協会全体の運営指針として取り組むものである。

記

## １　前期までの実績と課題

（１）諸施策の実行状況

前期計画は、令和３年から取組みを開始したところであったが、コロナ禍の影響が大きく目指していた対策を有効的に機能させることができなかった。とりわけ、協賛金・寄付金についてはコロナ渦の影響で企業の経営状況の悪化等により想定した目標を下回ったばかりか撤退される企業もあり、非常に厳しい状況となった。加えて、五種目の競技のうち馬術がオブスタクルに変更されたことにより、機材の新規購入及びアジア選手権大会の開催など想定外の支出が当初の計画未達となる大きな原因のひとつとなった。
一方、令和６年パリオリンピックにおいて、佐藤大宗選手が銀メダルに輝いたことは、選手及び関係者の弛まぬ努力の賜物であるが、本協会としては予算配付においても選手の競技力強化に取り組んだ成果と評価している。

①　本協会の会員数の増加による収益の拡大
ジュニア・ユース世代の選手を対象とした近代３種競技大会を開催し、徐々に大会に参加する新たな選手が増加傾向にある。
②　協賛・受取寄附等による収益拡大
コロナ渦の影響で企業の経営状況の悪化等により想定した目標を下回った
③　事務局経費の削減
事務局職員を正規雇用から業務委託契約に転換を図る等経費の削減に取り組んだ。また、会費の徴収では会費徴収システムの導入により事務コストの削減に取り組んだ。

（２）財務計画の実績
財務計画書実績（別添１）を参照

（３）課題の認識

① 会費収入の逓減状況

② 助成金・協賛金・受取寄付金の収益減少

③ グッズ販売等実施機会の未整備

④ 物価上昇による大会運営等諸費用の増加

## ２ 財政の持続的な安定に向けた具体的施策

（１）本協会の会員数増加に向けた取り組み

本協会の会員から受け取る入会金及び年会費は、本協会の活動の基礎となる収入であり、これを増加させることは本協会の活動を安定させるために必要不可欠である。

① ジュニア・ユース世代の選手を対象とした近代３種競技大会を積極的に開催し、会員数の増加を目指す。

② 全国各地で競技普及と育成を目的とした体験会や教室等を実施する。

③ 競技の認知度を向上させるための普及広報活動を強化する。

（２）助成金・協賛金・受取寄付金及び収益事業の拡充

① 協会のロゴマーク等をリニューアルするなどブランディングを強化する。

② メールマガジンの戦略的企画と定期配信によるファンエンゲージメントを強化する。

③ オリジナルグッズ販売による収益拡大を目指す。

④ メディアとの戦略的アライアンスを推進する。

（３）課題解決に取り組むプロジェクトを組成

① 総務委員会の直下にプロジェクトを組成する。

② 具体的施策を各委員会と連携し推進する。

以上